

◎県政への反映状況（平成29年度開催 知事と一緒に生き活きトーク）

金額は平成30年度当初予算

第1回：テーマ「多様な主体による美しく豊かな海づくり」（H29.7.11）

○ 白石島や真鍋島などでは高齢化が著しく、古くから継承されている祭りの開催すら難しくなっている。観光客の誘客のためには、地域の知名度を上げる必要があると思う。

→ 岡山ならではの観光素材を生かした観光キャンペーンを展開するとともに、総合観光サイトを活用した積極的な情報発信を行ってまいります。

「おかやま観光キャンペーン事業」 76,805 千円
「総合観光サイトリニューアル事業」 14,225 千円

○ 漁業者として、消費者に商品を責任をもって届けるため、流通形態の改善を行い、出荷する魚の価値の向上に取り組んでいる。取組開始時にはその価値を小売りが認め、高く買ってくれたが、飽きられてくるとそれが当然という形になり、単価が下がった。努力した分の価値を正しく評価してもらうのが難しい。

→ 県では、味覚センサーなどの機器を使用して、地魚のおいしさの見える化に取り組むとともに、ホームページやレシピ掲載サイトなどを活用して、旬の地魚や料理方法のPR活動に取り組んでいるところであり、引き続き、地魚の魅力を発信してまいります。

「水産物の美味しさの見える化研究」 1,000 千円
「漁業振興特別対策事業」 21,864 千円

○ 笠岡の離島では、祭りの時には人が帰ってくる。その中には、島への定住を希望している人もいるが、島での仕事がないので諦めている。漁業をやってみたいという人もいるので、漁協の方で受け入れる仕組みがあれば、教えてほしい。

→ 県では、新規就業した漁業者が安心して働くことができるよう各種交流会や研修会、地域のイベントなど学習の機会を提供し、積極的な参加を促しているところです。引き続き、漁協との連携の下、こうした取り組みを通じて、担い手の育成に努めてまいります。

「青年漁業者育成確保促進事業費」 869 千円

○ 山と川のつながりは非常に重要だと思っている。今後、このつながりを深めていくような活動に取り組んでいきたいと思っているので、人と人をつなげる役割を県に果たしてほしいと思っている。

○ 山と川のつながりが失われて、川から供給される栄養が無くなった結果、ノリの色落ちや水産資源の減少が生じたと聞いている。これからは、植樹等の山の環境を整備することについても考えていきたいと思っている。

→ 河川の源流域における森林で、漁業者による森づくり活動が行われているところであり、県では、引き続きその活動を支援してまいります。

「青年漁業者育成確保促進事業費」 869 千円

「海域環境解析事業」 1,649 千円

第2回：テーマ「岡山で働きたいと思ってもらえるために」(H29.8.10)

○ 就活活動をしているが、面接を受けて、初めて自分の向き不向きが分かることがある。就職活動の際に気づくのではなく、キャリア教育をもっと充実して、子どもの頃から、自分の進みたい道を考えられるようにするべきだと思う。

→ 進学を希望する高校生を対象に、企業見学バスツアーを平成28年度2校、平成29年度3校で実施しました。平成30年度は、県立普通科等高校生を対象に、県内企業と交流する場として、企業説明会や企業体験バスツアーを企画し、将来の地元定着やUターン就職を推進するとともに、職業観形成や県内企業の魅力を知る機会の提供に努めてまいります。

「高校生と県内企業の交流推進事業」 7,133 千円

○ インターンシップに参加しており、インターンシップ支援サイトのキャンパスウェブを使用しているが、存在を知らない友人も多い。

→ インターンシップについては、大学コンソーシアム岡山や就職支援協定締結大学と連携して推進しているところであり、引き続き、各大学への周知の呼びかけやメール配信サービスなどを通じた周知を行ってまいります。

「県内企業魅力PR事業」 22,463 千円

○ 多くの企業のインターンシップに参加したいが5日以上と拘束される時間も長いいため、負担が大きい。インターンシップに参加経験のある企業だと企業説明会なども参加しやすくなる。もっと気軽にインターンシップに参加できるよう短い期間でのインターンシップも充実してもらいたい。

→ 企業を深く知ってもらうことや離職防止の観点から、夏季インターンシップは、基本的に5日程度としていますが、平成29年度から実施している冬季インターンシップでは、短い日数のインターンシップも取り入れています。

「県内企業魅力PR事業」 22,463 千円

○ 大学に入る前や大学に入った後の生活はイメージしやすいが、就職となると、どんな仕事をするのか、どこで働くのかというイメージが湧かない。県内企業で働くことをもっとイメージしやすくなるようにしてもらいたい。

→ インターンシップや企業見学バスツアーなど、企業を知ってもらうことで就職後のイメージがしやすくなる取り組みを実施しています。

「県内企業魅力PR事業」 22,463千円

「岡山魅力再発見事業」 8,251千円

○ 島根県では、島根県内での就活の際に交通費を負担してくれる制度があるようだが、岡山県でもそういった制度があれば県外からの就職が増えるのではないか。

→ 県では、平成30年度から、大都市圏の大学生の県内への就職を促進するため、東京、大阪での合同就職面接会を開催するとともに、県内企業と県外大学生のマッチングについて、ネットを活用したオンライン採用面接を促進するセミナーを実施することとしています。まずはこうした取り組みにより、県内への就職を促進してまいります。

「大学生・若手社会人Uターン合同就職面接会の開催」 20,702千円

「ネット採用面接促進に向けたセミナー開催」 2,458千円

○ 教育学部で養護教諭を目指している。一般企業は1年目の社員には先輩の社員が指導をしてくれて、時間をかけて一人前になっていくと思う。学級の担任教諭は、学年団や他の先生などのフォローがあるが、養護教諭は学校に一人しかいない場合もあり、1年目でも一人で業務を担当しないといけない。責任がある業務であり、指導してくれる人がいないことは不安が大きい。

→ 経験の浅い養護教諭が一人配置されている学校に、個別の対応が求められる子どもへの対応方法や、学校、家庭、地域の関係機関などの連携などについて指導できる経験豊かな退職した養護教諭を派遣する取り組みを実施しているところです。引き続き、こうした取り組みにより、養護教諭の資質向上と不安の解消に努めてまいります。

「スクールヘルスリーダー派遣事業」 2,712千円

○ 中小企業は社員が少ないことから、一人の社員が人事、広報、経理などいろいろな仕事を抱えていて、企業のPRが十分にできていないと思う。とてもいい製品を作っている中小企業なのに知られていない。そんな企業のPRを行政が支援してはどうか。

→ イベント・セミナー、補助金、支援情報や、県内企業や専門家の検索といった様々な情報を提供するポータルサイトである「岡山県産業支援ネットワーク」を整備・運営し、その中で、「おかやま企業情報ナビ」による県内企業の情報発信を行っております。

また、斬新なアイデアや工夫、地域特性を生かした個性豊かな小売店を表彰する制度を設けており、入賞者を県のホームページや、さまざまな広報媒体を活用してPRしています。

「産業支援ネットワーク整備運営事業」 14,380千円

「おかやま優良小売店表彰事業」 983千円

○ 徳島ではWi-Fiを使って、起業を支援する取り組みも行っている。県としてそういった支援を行うことを考えてもいいのではないか。

→ 岡山リサーチパークインキュベーションセンターでは、Wi-Fi環境を整備し、起業を考えている人や起業して間もない人を支援しています。平成30年度には、国が推奨する簡素な認証手続きで利用できる機器の更新を行うこととしており、さらなる利便性の向上を図ってまいります。

引き続き、こうした取り組みにより、県内ベンチャー企業の育成を推進してまいります。

○ 高校の時から、もしくは、もっと早い段階から起業家という選択が思い浮かべられたらいいなと思う。県独自で起業家を育成するような施策を考えてはどうか。

→ 県が実施しているビジネスプランコンテストへの高校生の参加を呼びかけていくこととしており、県内外の企業・団体との交流を通じて起業家育成につなげてまいりたいと考えています。

また、中学生を対象に、企業等と連携し、起業家精神（チャレンジ精神や創造性、探究心等）やコミュニケーション能力等を育成する起業体験をモデル的に実施し、その成果を県内中学校に広く普及していくこととしています。

「ベンチャー企業等支援強化事業」 19,920 千円

「起業体験推進プロジェクト」 2,000 千円

○ 高校では、優秀であればあるほど、県外大学（特に難関校）に進学しなさいと言われる。生徒自身が「岡山がいい」「岡山に残りたい」と思っているのに、先生は岡山に残ることが悪いというような言い方で県外大学を薦めてくる。優秀なら外に出ろという教育ではなく、地域の人たちとの連携や伝統産業を学ぶなど、岡山に対する郷土愛を育むような教育をもっとやるべきではないか。

→ 生徒の地域への関心や愛着を高めるとともに、将来地域に貢献したいという意識の醸成につながる地域学の取り組みが現在一部の学校で行われており、こうした取り組みを県内に広めていくため、地元自治体や企業等と連携した「おかやま創生高校パワーアップ事業」を実施しています。平成28年度から6校を指定し、商品開発や産官学連携による環境保全活動など、地域の活性化に貢献する人材の育成に取り組んでいるところであり、平成30年度はさらに4校を加え、指定校での取り組みや成果を県内に普及してまいります。また、学校内外で、子どもたちが地域の人たちとともに、主体的に地域の課題解決に向けて取り組む活動の場の創出や、学校における道徳教育郷土資料集を活用した郷土学習の推進なども行っています。

今後もこうした取り組みを通じ、郷土岡山を愛し、より良い社会づくりに積極的に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

「おかやま創生 高校パワーアップ事業」 16,600 千円

「道徳教育総合支援事業」 3,910 千円

第3回：テーマ「アートで発信『地域の魅力』」(H29.8.22)

○ やかげ芸術街道というイベントを実施している。資金が必要ということはこれからはずっと課題になると思うが、共感してもらって一緒に活動してくれる人の確保が大きな課題だ。活動のスタッフとして名前を連ねてくれる人はいるが、事前準備や調整などを含めて動いてくれる人はなかなかいない。仕事をしながら携わってくれている人が多く、マンパワーが不足していると感じている。

→ 地域活性化を目指す県民を対象に、地域のイメージアップとにぎわい創出を促進するアートイベントなどを展開するための企画力やコーディネート力、広報技術などのスキルを備えた人材を育成する事業を実施しているところだ。

引き続き、こうした取り組みを通じて、人材育成に努めてまいります。

「おかやま生き生き文化プログラム推進事業（アートで地域づくり実践講座）」 6,015千円

○ 移住プロジェクトでは住むことを中心に、あらゆるサポートをしている。地域の人たちにもすごくお世話になっている。「この人が言うなら仕方がない」というような人とのマッチングや人の巻き込み方などにも気を配りながら進めることもある。マイナスの要素、あまり良く言わない人であったり、活動にとっては負荷がかかる部分などは必ず出てくる。そのあたりの対処や、移住してきた方のフォローアップなどの労力は5年、6年と活動していく中で、次の新しい課題だと思っている。

→ 県では、地域やNPOと一体となって移住者の受入れ体制整備や移住後のサポートに取り組む市町村への支援を行っているところだ。

今後とも、市町村と連携しながら、移住者をサポートする体制づくりに取り組んでまいります。

「移住・定住促進応援事業」 37,000千円

○ 一般の親とか子を対象としてイベントを実施しており、アートを言葉としては出しにくい場になっている。活動の中で親の苦労や課題を見つけるようにしている。子育ての孤立や遊びに行けないといった苦労や課題に、アートとして解決の糸口が見い出せるようなことができるのではないかと。アートイベントを使って、親子が楽しんだり、アーティストも一緒に楽しんでいくという仕組みづくりが必要になってくる。

○ アートの役割の一つとして、地域のコミュニティーの再生がある。アートイベントは廃墟の掃除や草刈りなど、多くの人が力を合わせながら、日替わりで対応してこそできている。地域の方々が楽しく掃除をしている姿はほかのイベントではあまり見ることがない。みんなで何かを成し遂げるところが大きいポイントだと思う。そういったことに喜びを感じられる人材が大切で、小さい頃にイベントを体験していれば、感覚が無意識に備わっていくのではないかと。例えば、幼稚園などにアーティストが訪問し、保育士さんなどがやらないような遊び方を、地域の人とも関わりながらできるようなイベントを行政でできないか。

→ アーティストを招聘し、地域との交流を進めながら地域資源を活用した短期滞在制作を実施し、地域の魅力をアートの力で掘り起こし発信する事業を実施しているところだ。

ろです。今後とも親子など、地域の参加者と参加アーティストが共に楽しめる事業となるよう努めてまいります。

「おかやま生き生き文化プログラム推進事業（アーティスト滞在・交流事業）」 4,000 千円

○ 人手不足や資金不足はどこでもあると思うが、アートイベントは各地で行われており、差別化するのが課題になっている。各自治体の枠を越えて、一緒にできるものは一緒にする、中間的な場所で開催するなど、ある程度統合してやるということも考えていいのではないかと考えている。

→ 県では、県民との協働による文化の祭典「県民文化祭」を毎年開催していますが、県民局単位で連携したアートイベントとするなど、各自治体の枠を超えて企画実施しているところです。引き続き、各地の特色を生かしつつ、連携が図られる内容とするよう努めてまいります。

「芸術文化活動事業費（おかやま県民文化祭）」 42,443 千円

○ 東京オリンピックが開催されるが、東京にあるホテルだけでは足りないのが分かっている。静岡など東京から1時間圏域の自治体が色めき立っている。岡山にも来る可能性があると思っている。空路で一時間ちょっとで行けるのは岡山の利点で、空港から宿泊場所までの移動や魅力を担保すれば多くの人に来てくれるのではないかと考えている。

→ 観光素材のさらなる磨き上げや旅行商品化の促進、積極的な情報発信、二次交通の確保など、全国から多くの方に訪れていただくための効果的な取り組みを、市町村や観光事業者と連携して進めてまいります。

「周遊観光促進事業」 5,396 千円

○ 県の移住フェア等で窓口に行くことがある。住みやすさや安全・安心などは前面に出しているが、文化を押ししているところはほとんどない。そういった場所で文化を前面に出してアピールしてもいいのではないかと。自分の暮らしを豊かにしたいと思っている人は文化に対する興味も高い人が多い。

→ 移住相談会などで、文化に関する相談を受けた際には、県内の文化施設の状況や文化イベントの状況について情報提供するとともに、必要に応じて、後日資料を送付するなど、個別に対応しているところです。

今後とも、市町村と連携しながら、移住希望者のニーズを踏まえた対応に努めてまいります。

第4回：テーマ「地域で頑張る元気な小売店」（H29.9.25）

○ 県北の流通が難しくなっている。真庭市には1か所、農協市場がある。以前は津山も新見も賑わっていたが、今は津山が難しくなった。市場があるから何とか地元の野菜を仕入れているが、直売所も増えており、農協市場に作物が集まらなくなっている。これが進んでいくと県北の流通は非常に難しくなる。野菜に限らず、総菜も売っているが、自社では作れないので、問屋から仕入れている。問屋も後継者がいない。そこ

がやめてしまうと、商売のできなくなるお店が出てくる。流通を支えるものや仕組みがあればいい。

- 県内で後継者の定まっていない事業者は6割を超え、このまま放置すれば廃業で人材や技術が失われるおそれがあるだけでなく、地域のサプライチェーンが崩壊するおそれもあります。このため、平成30年度に、事業承継に取り組む支援機関等が情報共有し連携するための全県的なネットワークを構築し、県内の中小企業者に対し、事業承継対策の必要性を普及、啓発していくこととしております。

「事業承継促進事業」 9,476千円

- 例えば、商店街の空き家になったストアに内職センターを作り、定年になったシルバーの方を集めたり、地域おこし協力隊に各地域に入ってもらっているが、そういう人たちに向けて、企業の後継者を募集するシステム、どこか困った商店に後継者になるための募集ができたらいいのではないか。

- 平成30年度に事業承継に取り組む支援機関等が情報共有し連携するための全県的なネットワークを構築し、県内の中小企業者に対し、事業承継対策の必要性を普及、啓発していくこととしており、事業承継のマッチングについても、ネットワークの構成員の間で情報共有してまいります。

また、中山間地域等において平成30年度から、新たな補助制度を設け、後継者を求める小規模事業者等と意欲ある継承希望者との継業に取り組む市町村を支援していくこととしております。

「中山間地域等活力創出応援事業」 27,000千円

「事業承継促進事業」 9,476千円

- 県民局が、同じようなネタで、あちこちで事業をやっている。同じようなセミナーを別の県民局も行っている。もっと効率よくしていただきたい。

- 各県民局の事業については、効率的な事業の実施ができるよう、本庁と県民局、各部局間で情報共有を図ってまいります。

第5回：テーマ「交流の場づくりで地域を活性化」(H29.10.16)

- ボランティアのような活動であるため資金繰りに苦労する。ソフトの補助金はあるが草刈機の購入などハードの補助金が少なく、特に耕作放棄地対策への制度を整備してほしい。

- 耕作放棄地対策については、国の交付金を活用した農地の再生作業や営農再開に向けた取り組みを支援しているところです。

引き続き、こうした取り組みにより、耕作放棄地の発生防止と再生利用を促進してまいります。

「荒廃農地等利活用促進交付金事業」 27,244千円

○ 東京のアンテナショップに出展したりイベントに参加したりしているが、特定の商品がずっと置かれている。岡山のいいものは他にもあるので、手続きを簡略化し、多くの商品を紹介できる場にしてほしい。また、若い人が自ら作った商品で、気軽にチャレンジできる場でもあってほしい。

→ 首都圏アンテナショップでは、県の知名度向上に向けた情報発信拠点としての役割を果たすため、「白桃」や「きびだんご」、「デニム製品」、「備前焼」など、本県のイメージを強くアピールする代表的な特産品について、継続してPRしています。

また、首都圏への販路開拓に向けて、コーディネーターによる新製品等の発掘や、県内事業者への首都圏バイヤーのニーズ情報の提供、定期的な商談会の開催などを通じて、アンテナショップ展示商品の追加・変更を行っています。

商品エントリーについては、簡単な手続きで申し込みできるように、Web上でのシステムを構築しており、さらに運営事業者との商談を省略して、店頭でテストマーケティングができる「チャレンジ商品制度」も設けています。

引き続き、県内事業者の皆さまが利用しやすい場になるよう取り組むとともに、首都圏の皆さまが「おかやま」を感じられる魅力的な店舗づくりに努めてまいります。

「県産品情報管理システム活用推進事業」 584 千円

○ 大人と未成年が同じテーマで一緒に話し合う場を設けるこの活動は、人脈づくりになり、将来的に人材が残ることになるので、企業へ寄附や協賛を呼びかけている。子どもたちと地域の大人との関係を紡いだ後に、本日の参加者皆さんが行っているような活動につながっていくのではないかと思う。これまではそういった教育がなかったため、関係性が作れるようにプログラム化して行っている。将来的にもキャリアを考える上で、中学生と地域の多世代との交流というものを教育に組み込み、岡山で政策化していける流れがあるといいと思う。

→ 子どもたちが積極的に地域に出向き、さまざまな人と関わり、地域への愛着や誇りを持つことは大変重要であることから、地域の資源を活用したキャリア教育や、子どもたちが地域の取り組みに参画できる場の創出等を推進することとしています。

「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」 4,000 千円

第6回：テーマ「中高生も活躍！中山間地域をみんなで活性化」（H29.12.26）

○ 中山間地域以外の地域でも「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」をやってほしい。

→ 平成30年度から対象地域を全県に拡大し、実施することとしています。

「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」 4,000 千円

○ 県内の各地区で行われている取り組みが、単体ではなく他地区の取り組みなどとなっていくことができれば、さらに充実したものになるのではないか。

→ コミュニティ広報誌「生き活きネット」を年1回発行し、地域で頑張っている個人

や団体の取り組みを紹介し、こうした取り組みが他地域につながっていくよう支援しています。

また、平成30年度は、各地区での取り組みや活動成果を他地区に波及させるため、活動報告発表会を実施し、全県へ広くPRをすることとしています。

「コミュニティ活動推進事業費」 257 千円

「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」 4,000 千円

- 生き活きトークの出席者は大人が多いようだが、今回のように子どもたちが知事と接する機会をいただけたらありがたい。子どもたちにとっても自信につながる。
- 平成29年度第2回「知事と一緒に生き活きトーク」においても、約40名の大学生と意見交換を行いました。今後も、テーマにより、こうした若い世代と意見交換を行ってまいります。

第7回：テーマ「結婚の希望をかなえる環境づくりに向けて」(H30.1.15)

- 引き合せのときに必ず話をしているのが、出会いは1つのきっかけであって、今後、お付き合いが進むかどうかは別物だということだ。「お見合い」というのは恋愛ができないから紹介されて結婚したというイメージが、今の若い人には強い。縁むすびネットに登録する人は、自分では見つけられなかった人だと思われるから言わないという感じではないか。こっそり登録して、出会って、オープンにはしないということがある気がしている。あくまできっかけなので、既成概念を取り払わないといけない。
- 自分たちの周りでも、自然な出会いを望んでいる割合が高い。合コンに来る人は嫌だといった意見があり、「出会い系」のネガティブな面を払拭し切れていないところがあると思う。
- 行政が、「縁むすびネット」や各種の結婚支援イベントを実施することで、安心感や気運の醸成につながり、ネガティブな意識を変えることができればよいと考えています。

「おかやま出会い・結婚サポートセンター運営経費」 17,450 千円

「マッチングシステムの運営に係る経費」 68,845 千円

「おかやま結婚応援・気運醸成プロジェクト」 16,591 千円

- 会社として、結婚そのものを支援することは、直接的には難しいが、結婚後の生活を支援していきたいと考えている。育児休業はほとんどの女性が取っているし、そういった環境は整ってきたと感じる。女性が仕事を続けるには、男性の協力が必要。我が社では、男性が1日でも2日でもいいので、育休を取る率が100%になることを目標としている。結婚後もキャリアを積むことができる施策を実施していかないと、子どもを産み育てながら仕事はできないと思う。
- 平成30年度から、社会保険労務士などをアドバイザーとして登録し、企業の要望に応じて派遣しアドバイスを行うことで、企業の実情に応じた女性の職域拡大や人材

育成プランの策定、両立支援の各種制度導入など女性活躍やワーク・ライフ・バランスの取り組みを支援していくとともに、管理職志向の向上や家庭との両立への不安解消等、働く女性の課題解決に向け、職場でリーダーシップを発揮している女性や子育てしながら働く女性など、キャリアステージに応じた多様なロールモデルの紹介を通じて、女性の活躍への意欲を喚起してまいります。

引き続き、こうした取り組みを通じ、女性のキャリア形成や、企業の女性活躍に向けた環境づくりがさらに進むことを目指してまいります。

「女性活躍・WLB応援アドバイザー事業」	7,038 千円
「働く女性トータルアシスト事業」	3,553 千円
「おかやま☆輝く女性☆未来設計応援事業」	8,469 千円
「岡山県イクボス推進事業」	4,316 千円
「おかやま子育て応援宣言企業活性化事業」	2,979 千円
「社会全体での子育て気運醸成事業」	9,822 千円

○ 就職活動を行っていく中で、企業の人からワーク・ライフ・バランスとか、育児もできるという話を聞くが、年齢が20～30歳くらい離れている方の話を聞いても、自分では、想像しにくい。年齢が近い人の話を聞きたいと思う。

→ キャリアステージに応じた多様なロールモデル（子育てしながら働く女性、企業で個性やリーダーシップを発揮している女性、起業した女性など）による自らの働き方や経験を発表する場を設け、学生を含めた多くの女性に、さまざまな活躍の選択肢を提案することとしています。

また、インターンシップや企業見学バスツアーにおいて、年齢の近い人から話が聞くことができる場の提供に努めてまいります。

「おかやま☆輝く女性☆未来設計応援事業」	8,469 千円
「県内企業魅力PR事業」	22,463 千円
「岡山魅力再発見事業」	8,251 千円

○ 家族留学のときに、結婚に必要なのは、覚悟とタイミングだと言われ、年配の人にその話をするとすごく理解してもらえた。私はそういった機会があったが、周りの学生にもそういう話を聞く機会があればいいと思う。

○ 20代、30代で結婚したいという人が多く、男女とも2人から3人という多子家庭を望んでいる。学校を出て就職して交際を始めてといった自分の人生設計を考えたときに、お付き合いして、どれぐらいで結婚してというのを想像すると30代から婚活を始めると多子家庭は難しい場合がある。小学校で「将来何になりたいか」というビジョンをみんなの前で発表するという場があるが、そういった中に、就職と併せて結婚というのを盛り込んでいけば、早いうちから、結婚を人生設計に組み込んで、少子化対策になるのではないか。

→ 平成27年度から、大学生等の若い世代を対象に、結婚を視野に入れたライフプラ

ンを考えてもらう「ライフデザイン講座」を実施しているところであり、平成30年度からは、高校生にも対象を広げて、実施することとしています。

また、フォーラムを開催し、社会全体での結婚への気運醸成を図ってまいります。

「おかやま結婚応援・気運醸成プロジェクト」 16,591千円

第8回：テーマ「サイクリングを通じた観光振興」（H29.1.22）

○ 現在の情報収集はスマートフォンやパソコンが主流なので、もっとSNSを活用したアピールをした方がよい。

→ 総合観光サイト「おかやま旅ネット」では岡山の観光情報を発信しており、観光誘客の強力なツールであるため、携帯端末への対応強化などを目的としたリニューアルを行うこととしているところであり、SNS利用者に向けた情報発信力の強化を図ってまいります。

「総合観光サイトリニューアル事業」 14,225千円

○ 韓国の新しい検索エンジンの企画に応募して選ばれ、真庭の情報発信をする機会があった。和食などへの関心は当然高いと予想していたが、予想外にサイクリングへの関心が高く、韓国から直接真庭の自転車店に問い合わせがあり驚いた。一つのテーマに絞って情報提供すれば、思いの強い方が集まってくると感じた。

→ 岡山県多言語サイトでは6言語で情報発信しており、毎年、酒特集や瀬戸内の島巡り、桜の花見スポットなど、2～3のテーマを設けて特集ページを作成していることです。

引き続き、こうした取り組みを通じて、魅力のある情報発信に努めてまいります。

「多言語サイト魅力発信事業」 9,258千円

○ 自転車競技で日本トップレベルの選手がいても、ほとんど知られていない。スポーツという観点からのPR等も必要ではないか。

→ サイクリングイベントをはじめ、多様な自転車競技大会などがあることから、その情報収集に努め、「おかやまスポーツナビ」を通じ、引き続き発信してまいります。

「スポーツ情報充実事業」 3,976千円

○ 昨年、スウェーデンとデンマークを訪れたが、駅から自転車で移動できる動線が整っていた。吉備路はバスが少なく、駅前からのアクセスに自転車を活用できればよいが、自転車で楽しんで走る環境がまだできていないように感じる。

→ 総社駅から県サイクリング推奨ルートである吉備路自転車道ルートにスムーズに移動できるよう、平成29年度に地域の魅力を紹介したサイクリングマップを作成し、総社駅前観光案内所や吉備路観光案内センターへ配付するなど、自転車で楽しんで走る環境の整備を図っています。

引き続き、こうした取り組みを通じて、快適で安全な自転車走行空間を提供してま

います。

- スポーツタイプの自転車にはスタンドが付いていないため、自転車ラックのない店舗などでは壁に立てかける。グループの場合は遠慮して長時間止めづらく、どうしても手短かに食事を終える店になってしまう。自転車ラックがもっと整備されればと感じる。
- 8つの推奨ルート沿線にあるサイクリング協力店や観光名所などを盛り込んだマップを作成しており、引き続き、こうした取り組みを充実させることによって、利用者の利便性向上に努めてまいります。

「おかやまハレいろサイクリングツアー推進事業」 7,930 千円

- 自転車は免許が不要なため、買いさえすれば誰でも走れる。もっと交通ルールや安全に関する教育が必要である。
- 自転車利用者の交通ルールの遵守とマナーアップを図るため、小、中、高校生を対象に、年代に応じた専用のリーフレットを作成・配布し、自転車のルールに関する指導を行うとともに、特に問題視されている高校、大学生に対してプロのスタントマンが交通事故を再現するスケアードストレート教育技法を用いた交通安全教室を開催し、交通ルールを遵守することの大切さを教育しています。

また、県警察では、サイクルマナーアップモデル地区及び同モデル校を指定して、自転車利用者に対する交通ルールの周知を図っているほか、関係機関・団体と協働した街頭指導、交通安全教室などを行っています。

引き続き、こうした活動を通じて、自転車の安全利用の促進や交通マナーの向上を図ってまいります。

「自転車の交通事故防止対策事業」 1,622 千円

- 道路交通法を知らない人が多すぎるため、その人の子どもも知らない状況となっている。また、スピードの速い自転車・遅い自転車がいくくりにされている点も危険ではないか。
- 県警察では、教育委員会、学校等と連携して、児童・生徒に自転車の交通ルールなどを学習させる「セーフティサイクル・ステップアップ・スクール」を開催しているところです。

引き続き、あらゆる機会を通じて、すべての自転車利用者に対して、「自転車は車両である」との認識を徹底するとともに、交通ルールの遵守やマナー向上に努めてまいります。

- 縁石がペダルに当たると危険であるので、もう少し高さを低くできないか。
- 道路の路肩を自転車が走行し、縁石にペダルが当たるのを防止するため、「原則、自転車は車道を走る」ことを県広報紙や新聞での広報、サイクリングマップへの掲載により、周知を図っています。